

巻頭言 「暗い夜、明るい朝」

宇野 元

あなたの上には主が輝き出で
主の栄光があなたの上に現れる。
イザヤ書 60,2

私たちも「暗い夜」を知っています。暗黒をじっと見つめ、こごえるようにして過ごす数時間を体験します。けれども、太陽が昇り、新しい一日の輝きが訪れると、それまでの暗さは消えてしまいます。上記の言葉にさきだって、聖書は、闇が地を覆い、暗黒が国々を包んでいると語っています。それは、今日の世界の上にもあり、国々を脅かしているといえるでしょう。

この言葉が記されたのは、聖書の時代のなかでも最も暗い時代だったといわれます。争いと不正が横行し、まことが失われ、人の心は荒んでいました。けれども、神が、まさに暁の光となり、明るい朝を告げておられる、苦難の中にある人々に未来を贈られる、と力強く語られています。これとおなじ神の栄光が、われわれの上にも現れるのだろうか？ むしろ、暗闇は深まっているのではないか？ ほかの人のことを考えるにはおよびません。自分自身の内側を探ればじゅうぶんです。そこにある暗闇は、どれほど深いことでしょうか。

しかし、「主の栄光があなたの上に現れる」と語る言葉は、次のことを示してくれます。私たちは一人ではない。将来を悲観的に眺めなくてよい。私たちの上には冷たい運命の影ではなく、主の栄光が現れている。私たちのためにイエス・キリストが来てくれたのだから。私たちは神の愛のもとにある——このことを、自分の暗さにかかわらず示されます。また、自分の周りの暗さにかかわらず。理解できない多くの出来事にかかわらず。そうして、確かな基盤を与えられて、勢いよく、きょうの歩みを始めることができるようにされます。

神様。夜明けに、あなたに声をあげます。
祈らせてください。私の思いを静めてください。
自力でできないことですから。
私のうちには暗闇があります。しかし、みもとに光があります。
ディートリヒ・ボンヘッフアー